6　雪害

(1)災害の様相

雪害は積雪が1.5mを超え，棚上まで及ぶと被害が大きくなる。雪害を引き起こす雪の沈降力は，最深積雪日から10-15日遅れてもっとも強い力を示す。この沈降力で棚や枝が引き下げられ披害がでる。枝の折損は，主枝，亜主枝，側枝，長果枝が大きい。また，整枝のときに無理をして枝を曲げたものや，主枝の曲部に太い枝を剪定した傷口のあるものは，折損による被害が大きい。

剪定をしていない樹や，長果枝を多く残した樹は，雪を多く支える結果となり枝の折損が大きい。

(2)災害の対策

ア　事前対策

(ア)棚の補強と荒剪定

落葉後に棚の杭，支柱，鉄線を点検補修し，あらかじめ不要な枝を間引く荒剪定を行う。

(イ)枝の誘引と補強

雪に埋まりそうな枝は，誘引するか．支柱を立てて補強する。また，空洞や裂開を生じ折れそうな枝は，ボルトやカスガイを用いて補強する。

(ウ)積雪期間中の対策

降雪中は果樹園に近づけないことか多いが，出来る限り枝の雪を払い落とす。また，枝が埋まった場合は，枝を堀起こして引きあげ，跡を踏み固める。また雪に埋まった枝で不要なものは早めに切り取る。

イ　事後対策

(ア)傷口の処置

樹の損傷部分の処置はできるだけ早く行なう。根幹の裂開部は，ボルトやカスガイなどで堅く接着させ，癒合に努める。傷口に水が入ったり，乾燥しないように，ビニール布など巻く。枝の3/4以上が裂開した場合は剪除する。

(イ)消雪の促進

地下水や河川水を散水したり，黒土や籾殻燻炭など融雪促進剤を散布する。

ウ　恒久的対策

多雪地帯では棚栽培を避ける。また，樹幹をなるべく高くし，主枝や亜主枝の発生角度を鈍角にして枝裂けなどの防止に努める。

表51　整枝方法と雪害程度(品種:豊水)(福井農試)

整枝方法	調査棚数(本)	主幹長(cm)	主枝			被害率(%)	主枝			被害率(%)
			本数	裂開数	折損数		本数	裂開数	折損数	
短幹主枝4本	4	35	15	3	0	20.0	40	8	3	27.5
長幹主枝4本	2	138	8	0	0	0.0	23	1	0	8.6
折衷主枝4本	5	60	18	1	1	11.1	56	8	2	17.8
2本主枝	4	84	8	1	2	37.5	35	7	0	20.0